「北京＋30」レビューについての紙谷雅子の発言（要約）

「北京＋30」とは，北京で開催された世界女性会議から 30 年だけでなく，この会議で採択された，ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを実現するための『宣言と行動綱領 Declaration and Action Platform for Action』が，当時，この宣言と行動綱領を支持し，実現するため努力することに同意した 189 カ国が，自分たちの約束にどのくらい忠実であるのかを検証する機会を意味します。
世界女性会議は 1995 年の北京会議を最後に，開催されておらず，CSW が 5 年ごとに，ジェンダー平等に関する進捗状況を検討しています。CSW は 5 年ごとの検証のほかに，さまざまな女性に関する問題を主要なテーマとして取り上げ，5 年後にそのテーマに関する進捗状況についての検証をしていますから，CSW においては常に，北京宣言と行動綱領を意識しています。
実は，2025 年 3 月に開催される第 69 回国連女性の地位委員会 CSW69 の主要なテーマが「北京＋30」なので，この 1 年をかけて内閣府は，いろいろな方面からの検証に耐えられるよう準備していると思われます。
そこで，本題,「日本はこの 5 年間，何をしてきたのか？」
この 10 年余り，つまりアベノミックスという経済活性化政策が日本政府の方針の中核を占めてきているので，労働人口の減少に対処するために，女性，とくに第 1 子出生をきっかけとして労働市場を離れてしまった人々を労働市場に呼び戻すことと，年金を受領するようになった人々が労働市場から完全に離脱しないようにすることが，重要視されているように見えます。
この 5 年間の女性政策は，2019 年の就労の勧め，2020 年，2021 年の女性の積極的な社会参画を妨げる，女性を念頭に置いたコロナウィルス対策，2022 年，2023 年の女性の経済的自立，女性が尊厳と誇りを持って生きる社会・・・。(6 月にならないと，2024 年の骨太の方針は公表されません)

2023 年には，困難な問題を抱える女性に対する政策として法律が制定されましたが，「被害者」としての女性がクローズ・アップされる（すごい上から目線の）側面が強いことがとても気になります。どうしたらこれが北京宣言で実現すべきと考えられた「女性のエンパワーメント」と結びつくのでしょうか？
「エンパワーメント」は，日本語のコンテクストでは，いささか上から目線的な権限の付与や委譲，部下に力をつけてやるとか，指導する，能力発揮に対する阻害要因を除去

して自信を与えて，行動を促すというニュアンスで使われることがほとんどですが，人が本来の能力を発揮する，権限を自ら行使するとときの決定と実行，妨害排除だけでなく，その成果を誰もが認める（横取りされない＝社会が認知する）ことも重要な要素です。が，人の潜在的な能力を引き出し，本来の力を発揮するという内在的な力の積極的肯定的な評価に対する社会実態が乏しいせいか，ぴったりの日本語がありません。
そして，「困難な問題を抱える女性たち」という括りは，私には，「あるべき姿」ではない人々を社会が非難しているだけに見えます。
韓国の少子化問題は，社会が「フル・タイムの親」ではなく，「母」役割を内在化した「パターナリスティック」な社会の無意識の偏見という一晩では解決できない問題だと思われます。日本の「パターネリスティック」な無意識の偏見は，「あるべき姿」ではない人たちにつらく当たっているともいます。でも彼女たち，彼らが，本来の能力を活かせるように，時間と手間とコストをかけて，社会に適合するのではなく，社会を適合するよう，対応すべきであり，そのためには，より多くの専門家をより多く，適切な身分保証を通じて，その成果を社会が認知するようになった方が，多くの人が不幸にならないように思われます。

これからの政府の施策のポイントは「誰も取り残さない」こと
　これは国連においても，事務総長が強調するポイントです！
1. みんなが同じ意見だとしたら，それは（進化論的に見ても）「失敗」！　いろいろな意見が，立場があるから，社会はより豊かになると，期待されています。
2. 女性が尊厳と誇りを持てない社会では，女性でない人も尊厳と誇りを持てないのではないか？　これはジェンダー主流化。
　暴力も，性犯罪も，「女性だけ」が被害を受けているわけではなく，被害を受けた人も，害悪をもたらした人も，社会防衛のため，「手当」が必要
3. 社会において，さまざまな指標を活用し，それぞれの指標に関する「弱者」をサポートする政策が重要

　5 年後も，同じ議論をしなくて良いように・・・「聞く」だけでなく，「考えて」，「自分の一番言いたいこと」について，発言しましょう！　他の人にも伝えましょう！